

# 風土記の丘の花だより<sup>242</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2024年6月29日)

梅雨に入って、蒸し暑くうっとうしい日が続きます。水分補給など、体調管理に留意してください。先日、気づきました。今年カキツバタが咲きませんでした。例年、5月の連休あたりに開花しますが、今年はどうしたのでしょうか。なぜかふと、そんなことを思い出しました。



谷山家の奥の竹藪の中でコ克蘭が咲いています。コ克蘭はランの仲間です。よくクンシラン、オリヅルランなどというように、ランでもないのに、名前にランと付く植物は多いですが、これは正真正銘のランです。黒い蘭という意味の名前ですが、黒というより濃い紫色です。色はパツとしませんが、形はとても魅力的です。野生ランということで、心ないマニアの方に抜き取られることもあります。お互いがマナーを守ることで、いつまでもこの花を愛でることができるとでしょう。



谷村家の東の生け垣の外で大きな葉を付けた木(?)が生えています。そして今、大きなツボミが付いて、花も咲いています。さらに、小さな実までできています。これはバショウです。そして、見た目は大きくて木のようですが、じつは草です。実を見ると分かるようにバナナの仲間です。でも、実はここまでで、これ以上は大きくなりません。バショウは漢字では「芭蕉」と書きますが、松尾芭蕉はどうしてこんな名前をつけたのでしょうか。それはその道の先生に聞いてください。



谷山家と船屋の間ぐらいの山側でタカトウダイの花が咲いています。大きなイタドリの下の辺りです。「背の高いトウダイグサ」という意味です。そしてトウダイというのは潮岬のようなものではなく、昔の照明器具で、明かりを点す灯台のことです。細い柄の上に油を注ぐ皿のようなものがついている、アレです。花の一つひとつは小さいですが、花序が広がっているので大きく見えます。名前のように1メートルほどに伸び、周りの草より高くなります。



燃えるようなオレンジ色のヒメヒオウギスイセンの花が咲いています。園芸植物としてはモントブレチアの名前で通っているようです。アフリカ辺りが原産とされていますが、丈夫な植物なので、いまでは野生化したものも見られます。名前にスイセンと付きますが、アヤメの仲間です。風土記の丘では、はじめどこに植えたのか分かりませんが、今では広がって、あちこちで見ることが出来ます。花の少ないこの時期、少々暑苦しいですが、この花も愛でましょう。松下